

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 18 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593394

研究課題名(和文) 乳児期の子どもを育てる母親のMastery獲得のプロセスと介入方法の開発

研究課題名(英文) Development of nursing intervention for mothers' mastery of child rearing

研究代表者

嶋岡 暢希 (SHIMAOKA, Nobuki)

高知県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：90305813

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、乳児期の子どもを育てる母親のMastery獲得のプロセスを明らかにし、時期に応じた介入方法を開発することである。乳児を育てる母親を対象に生後1か月、6～7か月、11～12か月の時点で面接調査を行い、それぞれの時点で母親のMasteryについて分析した。その結果、【親であることを意識し、育児の経験を積み重ねる】、【複数の役割に折り合いをつける】、【周囲の人ときずなが深まり、親として自らが成長する】などのMasteryの局面が抽出された。これらの結果と文献検討から、Masteryを促進するための介入方法を考察した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to identify the mothers' mastery of child rearing and to discuss intervention for mothers' mastery. The results showed that mastering these qualities--becoming aware of themselves as parents, accumulating childcare experience, finding ways to compromise between multiple roles, and deepening their sense of connections with people around them and growing as parents themselves--led them to feel growth and self-confidence as parents and enhancement of ties with their husbands and families. To promote these mothers' mastery, it is essential for husbands and family members to offer support from the time of pregnancy, specifically, finding ways to improve communication between the couple for having discussions on problem-solving methods and managing stresses that are likely to arise after the child birth.

研究分野：医歯薬学

キーワード：乳児 母親 育児 Mastery

1. 研究開始当初の背景

母親にとって子どもを産み育てることは、身体的な変化のみならず、社会的にも心理的にも大きな変化をもたらす多様で複雑な体験である。清水(2007)は、育児期にある母親にとって子どもを産み育てることは、子どもとのかかわりだけでなく、日々の生活や夫との関係、さらには社会システムに対してもストレスをかかえており、このような複合化したストレスは子育て期を幸福にすることを困難にしていると示唆している。特に生後1か月、6か月、1年の時点で母親の育児に対する否定的反応が高く生じる傾向があることも明らかになっている。一方、母親は育児で悩みながらも、他者の力を借りる、工夫をする、考え方を変更するなどから、育児の困難を克服し、自分の体験を意味あるものとして示されている(望月;2005、小林;2006、清水;2007)。育児をしていく中で困難に感じる状況でも、母親はその状況を多様な視点から解釈する力を持っており、考え方や方法を変更し、環境をコントロールすることで育児の自信につながっていることが推測される。

このように、困難な、もしくはストレスに満ちた状況に対する人間の反応で、ストレスの経験を通して適応能、統制能、支配能を獲得していく人間の反応は Mastery といわれている(Younger,1991)。Mastery と関連要因についての研究では、Mastery とソーシャルサポートは正の相関、ストレスとうつは負の相関があることが明らかになっている(Younger;1997)。このことから、乳児期の子どもを育てる母親の Mastery を強める介入により、母親が周囲からの支援を実感し、ストレスや産後うつを回避するという効果が期待できると考える。岡本(2008)は子育てについての夫婦間のずれや対立への対処において、出来事の解釈や意味づけが重要であり、夫婦が子どもの誕生のよい側面を見つ

めて肯定的に捉える、期待の水準を下げるなどの意味づけの変化から、現実を受け入れていることを明らかにしている。つまり、母親の Mastery には、夫婦の関係性を意味づけ、お互いの関係を良好に保とうとする力も含まれることが考えられる。これらから、乳児を育てる母親の Mastery を強めることにより、夫婦の関係性にも良い影響を与え、そのことが夫婦間の絆を強め、ひいては子どもへの対応にも良い影響が及ぼされると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、乳児期の子どもを育てる母親の Mastery のプロセスを明らかにし、その時期に応じた介入方法を開発することである。生後1か月、6~7か月、11~12か月の乳児をもつ母親を対象とし、1)母親が抱えている育児のストレスや困難、2)育児のストレスや困難を乗り越える力、3)Mastery を促進する要因、困難にする要因を明らかにする。そして、これらの結果から、乳児期の子どもを育てる母親の Mastery 獲得への介入方法を検討する。

3. 研究の方法

Mastery に関する国内外の文献、資料を収集・検討し、Mastery のプロセスを明らかにするインタビューガイドを検討する。

次に、乳児を育てる母親を対象に生後1か月、6~7か月、11~12か月の時点で面接調査を行い、縦断的にインタビューを行い、得られたデータは逐語録を作成し、それぞれの時点での乳児をもつ母親の Mastery について分析する。

これらの結果をもとに、乳児期の子どもを育てる母親の Mastery を促進する看護援助を検討する。

4. 研究成果

(1) 文献検討

乳児期の子どもを育てる母親のストレス

と Mastery はどのようなものであるか明らかにすることを目的とし、文献から検討した。その結果、乳児期の子どもを育てる母親は、育児に不慣れであり、子どもの成長発達に伴い新たな育児の対応が求められることからストレスが生じており、そのストレスは母親の心理的傾向と、子どもや夫、家族に対する感情に影響をうけていた。また乳児期の子どもを育てる母親の Mastery は、自分なりの方法を確立する【確かさ】、自分自身の思考・行動を変化させて、生活を工夫し時間をコントロールする【変更】、現状に妥協し折り合いをつけていく【受け入れ】、育児をしている自己の能力や存在価値を高める【拡がり】から構成されていた。

(2) 生後1～2か月の乳児を育てる母親の Mastery

1～2か月の乳児を育てる母親8名に面接調査を行った。その結果、母親は《育児コントロール感の欠如》、《心身の脆弱感》、《育児や家事の協働をめざす過程での負担感》というストレスをかかえているが、【親であることを意識し、育児の経験を積み重ねる】、【複数の役割に折り合いをつける】、【周囲の人ときずなが深まり、親として自らが成長する】という3つの Mastery の局面により、夫や家族とのきずなを深めながら、親としての自信や成長を感じていることが明らかになった。

(3) 生後6～7か月の乳児を育てる母親の Mastery

6～7か月の乳児を育てる母親12名に面接調査を行った。1～2か月頃に比べると、睡眠不足や身体的な不調を訴える母親は少なくなり、子どもとの生活に慣れてきていることが伺えた。しかし、月齢に伴い《新たに立ち足る育児への課題》に直面していた。また育児と家事の対処に慣れてはくるものの、夫への気兼ねから《育児や家事の協働をめざす過程での負担感》が時に増大していた。そのようなストレスに対し、【その子どもに

あわせた育児を展開する】、【ルーティンの家事育児を確立する】、【子どもの成長・発達に伴う育児の喜び】という Mastery の局面がみられた。

(4) 生後11～12か月の乳児を育てる母親の Mastery

11～12か月の乳児を育てる母親6名に面接調査を行った。この時期にも《新たに立ち足る育児への課題》があり、自分の体調不良や、家族の病気等により、育児の負担が増大している母親もいた。そのようなストレスに対しても、母親は【自分なりの育児や家事の方針をみいだしていく】ことや、子どもと一緒に育児サークルでの活動でそれまで以上に外出の機会をもつことや、仕事への復帰を始めるなど、【一人の女性として役割を拡大していく】Mastery の局面がみられた。

(5) 乳児期の子どもを育てる母親の Mastery 獲得への看護介入

生後1～2か月

この時期は、産後の身体的回復がままならない状況で1日何度も繰り返す授乳やおむつ交換などに追われ、特に《心身の脆弱感》と《育児や家事の協働をめざす過程での負担感》が強い状況である。そのような中でも母親が【親であることを意識し、育児の経験を積み重ねる】という Mastery の局面に集中できるような介入が必要である。睡眠不足など母親の身体的なニーズが満たせるようにし、《心身の脆弱感》を軽減することと、家事や母親でなくてもできる育児を夫や家族が行うことが必要である。そのため、妊娠中から妊婦や夫・家族に、出産後に生じるストレスに関して具体的なイメージ化をはかり、出産前から妊婦が夫・家族とともに問題解決の方法を検討できるよう支援する必要がある。産後は、検討した問題解決の方法が実際に行動化するよう踏み込んだかわりも必要であると考えられる。

生後6～7か月

月齢を重ねてくると、母親が【その子どもにあわせた育児を展開する】という Mastery を獲得できるよう支援していくことで、他の子どもとくらべて不安に陥ることが少なくなり、【子どもの成長・発達に伴う育児の喜び】の局面も促進されると考えられる。母親が子どもの個別性を把握し、その子どもにあわせた方法で育児をしていることに対し、肯定的なフィードバックを行うこと、母親同士の交流場面で精神的な支援が受けられるような機会をつくっていくこと、子どもの成長や発達、健康状態など今後予測がつかないことに対して不安を募らせるのではなく、今までの経過からよい側面をみつけていくことなど、母親の認知にはたらきかけることも必要である。

生後11～12か月

この時期は、母親が【一人の女性として役割を拡大していく】時期であり、役割を拡大する上で、家事や育児の方法、夫や家族との協働などを検討し、【自分なりの育児や家事の方針をみだしていく】局面を強めていく必要がある。そのために、母親自身が自分の望む社会的役割についてどのようにとらえているか明確にすると同時に、役割を拡大していく上で、母親としての役割、妻としての役割として優先すべきことは何か、あるいは何に価値をおいておりあいをつけるのか、夫や家族と話し合いをもち、共通理解をしていくことが必要である。

<引用文献>

清水嘉子、子育て期をより幸福に過ごすための母親の工夫とその効果、日本助産学会誌、21(2)、2007、23-35。

望月初音、他、母親の適応過程に関する研究 - 産褥1.5カ月時における初産婦の

心理的变化と影響要因に焦点をあてて - 筑波国際短期大学紀要、35、2007、157-170。

小林康江、産後1ヶ月の母親が「できる」と思える子育ての体験、母性衛生、47(1)、2006、117-124。

Younger, J. A theory of mastery. *Advances in Nursing Science*, 14, 1991, 76-89.

Younger, J. et al. Mastery of stress in mothers of Preterm Infants. *Journal of the Society of Pediatric Nurses*. 2(1), 1997, 29-35.

岡本依子、他、親と子の発達心理学 縦断研究法のエッセンス、2008、新曜社 120-121.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

嶋岡暢希、岩崎順子、松本鈴子、時長美希、
生後1～2か月の乳児を育てる母親の Mastery、高知県立大学紀要看護学部編、65、2016、査読有、1-13。

<http://id.nii.ac.jp/1299/00000030/>

嶋岡暢希、松本鈴子、時長美希、岩崎順子、
乳児期の子どもを育てる母親の Mastery に関する文献検討、高知女子大学看護学会誌、査読有、38(2)、2103、148-155。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

嶋岡 暢希 (SHIMAOKA, Nobuki)

高知県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：90305813

(2) 研究分担者

松本 鈴子 (MATSUMOTO, Suzuko)

高知県立大学・看護学部・教授

研究者番号：30229554

時長 美希 (TOKINAGA, Miki)

高知県立大学・看護学部・教授

研究者番号：00163965

岩崎 順子 (IWASAKI, Junko)

高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：90584326